

私は入職してから特養に2年、デイサービスに7年、そしてこの4月からはショートステイに勤務しています。この約10年間、振り返ってみれば本当にたくさんの利用者と関わらせていただきました。それは食事や入浴などの実際の介護場面での関わりであったり、書類の説明などの事務的な関わりであったり、普段の何気ない会話を通しての関わりであったり…。それらは全て、「利用者の安心」につながるものだと思います。利用者からしてみれば、自分のできないことを危険のないように手伝ってもらえるという安心。わかりづらい制度の中で、わかりやすい説明をしてもらえる安心。誰かがそばにいてくれるという安心。そうした様々な場面において安心感を持っていただくことが、介護のプロとしての職員の役割だと思います。

この4月からショートステイに配属になり、驚いていることの 하나가 園芸活動、いわゆる野菜作りです。ショートステイの畑は春から大忙し。それはもう様々な野菜を育てては収穫しました。じゃがいも・サツマイモ・枝豆...などなど。9月には大根の種をまきました。ショートステイの談話室から外に出るとそこは利用者の心躍る（血が騒ぐ？）菜園です。畑仕事にお誘いすると「任しとけ」と意気込んで取り組まれますし、畑に雑草が生えれば、率先して草取りをしてくださいます。まさに昔取った杵柄、その手つきは畑のプロです。畑仕事のノウハウのほとんどは、利用者の皆さんから教えていただいています。このようにショートステイにおいては、畑作業を通じて職員は利用者に関わらせていただいております、畑仕事を通じて利用者に「まだまだ私は大丈夫、若いもんには負けてないぞ！」と「安心感」を持っていただけていれば、とても嬉しいことです。畑を通して生まれる職員や利用者のたくさんの笑顔。そんな笑顔あふれるショートの畑は、今日も元気に野菜が育っています。



短期入所事業かつぼ園 管理者 早川 亘